

# しいむじな

2025・冬

91

特集

## 早春の野山を楽しむ

夕チツボスミレ 木更津市矢那(2013年3月20日撮影)

### 房総のフィールド・ミュージアムとは

房総を舞台に、地域の自然や文化そのものを「資料」や「展示物」ととらえる、千葉県立中央博物館によるフィールド事業(野外で展開する博物館活動)の一環です。観察会を開催したり、君津市立清和小学校の校舎を利用した「教室博物館」を拠点に、地域の方々のご協力のもと、資料の収集や調査・研究等の活動を行っています。

野山を散歩するのに良い季節はいつでも。夏は熱中症が心配で、最適とは言えなくなってしまう。春や秋も良い季節ですが、最近人気があるのが早春です。蚊やヒル、ダニに悩まされることもなく房総の低山を散策することができます。早春の散策を機会に草花の観察を始めてはいかがでしょうか。

初めての散策では、どこへ行けばよいのか、どうやって花の名前を調べればよいのか、迷うかもしれません。最近では、ネットやAIの発達によりかなり詳しい情報を入手できるようになりました。ここでは初心者でもできる、スマホやサイトを活用した野草の楽しみ方をご紹介します。

(斎木健二)



## 特集

## 早春の野山を楽しむ

## 行き先の候補を探す ①

野草散策に良いコースを探すにはどうすればよいのでしょうか。ここで便利なのが航空写真です。国土地理院の空中写真(出典: 国土地理院撮影の空中写真(2019年撮影))は高精度ですが、カラーでは千葉県全域を網羅できていません。一方、少し荒くなりますがグーグルマップの航空写真は日本全域をカバーしています。

## コースを決める ②

候補となる道が見つかったらグーグルのストリートビューで、見てみましょう。この写真のような道路と周囲の景色を、かなり多くの道沿いに連続してみるができます(写真はイメージ)。



## スマホで位置を確認 ③

現地ではスマートフォンで自分の位置を確認しながら歩きましょう。グーグルマップのほか、「スーパードル」などルートを記録できるアプリもあります。スマホの電波が届かないところに行くときには、「ジオグラフィカ」のようなオフラインでも使える地図アプリが必要となります。念のため紙の地図も持参しましょう。地図は、「地理院地図」のサイトからプリントすることができます。(図はイメージ。地理院サイトに線と矢印を加筆。)

## 草花の種類を調べる ④

最近では、AIを使ったアプリが撮った写真からかなりの精度で名前を



調べてくれるようになりました。一番手軽なのはグーグルの画像検索を活用する方法です。他にもPicture thisやGreen Snapなどのアプリがあります。

## 写真を撮る ⑤ ⑥

アプリは万能ではありません。あとで図鑑で確かめることも多いでしょう。そんなとき写真はとても便利です。調べやすいように、花のアップだけでなく、葉、葉の付け根、茎、全体の写真を撮っておきましょう。定規などを写し込むと大きさもわかります。

## 観察会に参加する ⑦

草花に目が止まるようになったら、



ぜひ博物館の観察会にも参加してください。一緒に楽しく野山を歩きましょう。



## コラム

## 房総の動植物 (11)

## 昆虫の越冬

寒い冬。森に入ると、とても静かな空間が広がっています。聞こえるのは鳥の鳴き声と落ち葉や枯れ枝を踏む音だけ。暖かい時期にあれだけ感じた様々な生き物の影はどこにもありません。そんな冬、昆虫はどこでどのように生活し、春の訪れを待っているのでしょうか。

冬の生き物が行う行為として聞き馴染みがある言葉が「冬眠」ではないでしょうか。実は昆虫と哺乳類(クマなど)の「冬眠」は全くの別物です。昆虫を含む変温動物は我々哺乳類が含まれる恒温動物と異なり、体温が外気温に依存します。そのため、夏には体温は上がり、冬には体温は下がります。寒い冬は体温が低く活性が下がるために素早く動くことができませんが、冬場でも暖かい日は活動的になることがあります。冬眠がしたいのではなく、ただ低温で動くことができないという表現が適切かもしれません。

## どこで越冬するか？

昆虫は、冬はあまり動けないことがわかったかと思えます。このような時期、外敵から身を守るためにはどこに身を隠すでしょうか？倒木の中やその下、落ち葉や石の裏側など、わずかな隙間に身を潜めています。またカメムシやテント

ウムシの仲間には互いに集まって固まるようにして越冬を行い、これを集団越冬と言います。写真①は12月に撮影したヨコヅナサシガメの幼虫で、木の割れ目に沿って固まって越冬しています。このヨコヅナサシガメは暖かくなつた翌春に脱皮して成虫になり散り散りになりました。

集団越冬する種類の多くは、フェロモンなどの化学的な合図や、好む環境の共通性によって集まると考えられています。外山(2011)はクサギカメムシ(写真②)を用いて越冬集団の形成を調べていますが、その中で、本種は暗く、構造物の角などの狭い場所を積極的に選ぶ傾向があり、それが結果として集団形成につながると述べています。また、触角の先端2節を切断した個体では集団が形成されず、化学的な情報(フェロモン)を受け取る機能が集団形成に関わっていることが示されています。

## どのような状態で越冬するか？

昆虫は、グループによって異なりますが、1.卵、2.幼虫、3.蛹、4.成虫の4段階があります。卵で越冬する昆虫の代表がカマキリです。カマキリは秋にメスが卵を産み付け、卵のまま冬を越し、翌春に孵化します。腐葉土を掘り返すとカブトムシの幼虫が、エノキの落ち葉をひっくり返してみるとオオムラサキの幼虫

がいるかもしれません。先ほど紹介したテントウムシは成虫が集団で集まって冬を越します。多くの昆虫がじつと春を待ちますが、「フユシヤク」と呼ばれるガ(蛾)の仲間は、冬に繁殖する珍しい生態が知られています。

## 探してみよう！

ということですが、次は実際に探してみよう。ただ、当然ですが寒い冬では元気に動いてくれません。動かない小さな昆虫を根気よく探すことが大切です。

まずは落ち葉をめくってみましょう。すぐに目につくのがトビムシの仲間です(写真③、④)(※トビムシの仲間は、脚は6本ですが、厳密にいうと昆虫ではありません)。「飛び跳ねるのが特徴で、そのための器官(跳躍器)を持っています。トビムシの仲間は小さく、大きくても5mmほどですがたくさんの種類があり、色も様々で観察が楽しい生き物です。

公園では樹木の名前が書いてある樹名板があります。そーっと壊さないように裏側を見てみるとテントウムシが集まっている様子を観察できるかもしれません。

そのほか、倒木や石をひっくり返して探してみてください。昆虫に限らずたくさん生き物がじつと冬を過ごしている様子が観察できるでしょう。

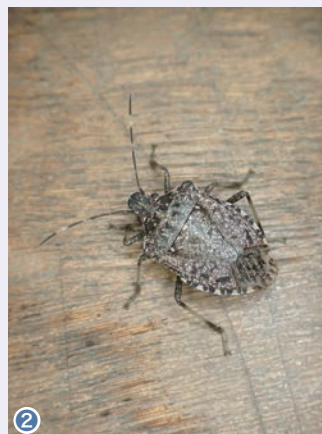
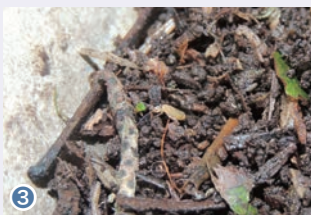
冬の昆虫観察に限りませんが、ひっくり返した倒木や石は元に戻しましょう。環境が変わってしまうと、越冬中の昆虫や他の生き物が命を落としてしまう可能性があります。非常に高くなります。

静かな森の中で一枚一枚落ち葉をめくって行う昆虫観察も乙なものです。ぜひ皆さんもお試しを。

(樽宗一朗)

## 参考文献

外山晶敏(2011)・クサギカメムシに関する最近の話題―越冬集団の形成を中心に―、植物防疫, 65(9) : 39-43.





## 『フィールドノート』の紹介

房総のフィールド・ミュージアムのウェブサイトには『フィールドノート』というコーナーがあります。学芸員が房総の山を歩き回って見つけた生き物や地形・地質や歴史・民俗などを写真と文章で紹介しています。毎月記事を追加していますので、QRコードからぜひご覧ください。

(樽宗一朗)



## 連載

## 小櫃川流域の生きもの

## エサキオサムシ ～古地理を反映した分布～

小櫃川中流域の台地は雑木林で覆われ、平坦な場所に畑や梨が作られていて、鎌を研ぐなどの農作業に使う湧水を溜める直径約1mの小池が林道の崖下につくられている。小池は冬～春にトウキョウサンショウウオの絶好の産卵場所になる。初夏になるとエサキオサムシが、湧水が滴る崖や池ざわなどを歩き回る。このオサムシはサンショウウオが変態し陸上生活をしたばかりの幼体を捕らえるために来ているのか？と思った。

エサキオサムシはクロオサムシの亜種の1つで、本州の関東地方から新潟県にかけて分布している。森林にすみ、夜行性で、小昆虫の成虫や幼虫などを食べる大型の肉食甲虫である。しかし、房総では君津市の鹿野山(352m)と富士山(上総富士、大坂富士285m)を結ぶ地域を南限とし、これより北方で低標高の丘陵地帯に及ぶ約120kmの分布域を持つ。最北の分布確認地点は木更津市中尾及び笹子であり、小櫃川の北側と東側には分布していない(信太1984)。エサキオサムシが房総ではとても狭い範囲に孤立して分布しているのに驚いた。このオサムシは、翅(はね)が退化し、飛ぶことができず、地上を歩いて移動するので、海や川や山脈などで移動が妨げられる。エサキオサムシは、小櫃川から北方には分布していないので、古地理、すなわち、地質時代の海と陸の分布、地形などを考えねば説明できない。信太(1984)によれば、エサキオサムシは洪積世前期ないし中期に房総に達したと推測されるという。つまり、更新世カラブリアン期～チバニアン期に房総に侵入したと思われるという。千葉県更新世の時代は、嶺岡隆起帯(保田・岩

引用・参考文献

別所松彦・佐野誠, 1974. 千葉県のおいたち 所収: 前田四郎監修・千葉県の地学ガイド編集委員会編, コロナ社. pp297-305.

信太利智, 1984. 房総半島中部でのエサキオサムシとカズサオサムシの分布. 千葉生物誌 34 (1): pp22-30.

上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝, 1985. 原色日本甲虫図鑑 (II) 保育社.

山崎秀雄, 2002. オサムシ類. 所収: 千葉県史料研究財団編, 千葉県の自然誌本編6, pp. 456-458.

成田篤彦, 1978. 房総半島におけるトウキョウサンショウウオの分布について. 千葉生物誌27 (1, 2): 92-101.

国際年代層序表 (国際層序委員会 2024年12月) .

井から鴨川・太海にかけての地域)を中心とする房南及び鋸山一帯が三浦半島と陸続きとなり、千葉県北部は東方に開いた大きな湾となっていた。エサキオサムシはこの陸の橋を伝わって房総に侵入してきたと考えられている。

ところで、トウキョウサンショウウオも更新世後期の古地理に依存した分布であることが推測されている(成田1978)。低地・台地・丘陵地しかない流域の生き物に、古地理を反映して分布している種がいるとはとても興味深い。



写真 エサキオサムシ 湧水がしたたる崖を徘徊する 体長18-23mm  
2007年5月2日 木更津市中尾

(文・写真 千葉県立中央博物館ボランティア 成田篤彦)

## 編集後記

今回は、植物と昆虫についての話題をお届けいたしました。

私はGeographicaを使って位置情報を確認しています。まだ不完全とはいえ植物の名前を調べるのにもAIが活用できるのは驚きでした。図鑑やスマホと、にらめっこしない未来は遠くないかもしれませんね。昆虫はまだ植物ほど精度が高くなさそうです。

(樽宗一朗)

## しいむじなの由来



房総のフィールド・ミュージアムのニュースレターのタイトル「しいむじな」は、アナグマをさす房総丘陵の方言です。ムジナは地域によってアナグマやタヌキをさすなど様々なのですが、千葉県内ではアナグマのことが多いようです。房総丘陵の人々は、大きなスダジイの木のウロに棲んでいるムジナを、愛情を込めて「しいむじな」と呼んでいます。